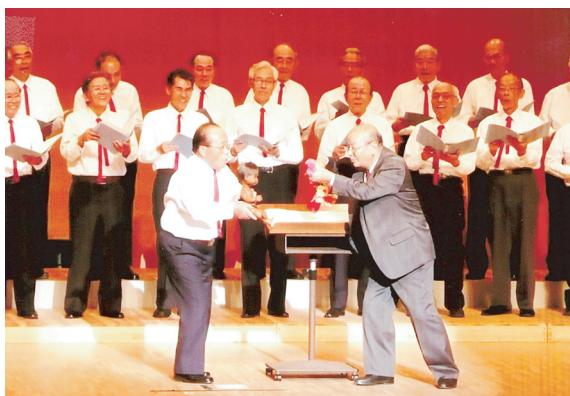


活動名	団体名	山口大学メンネルコールOB会
男声合唱を通じての青少年健全育成	地 域	山口県防府市
	代 表 者	代表世話人 藤村 恒美
	支援金額	10万円
活動概要		
<p>女声合唱団「白い風車」結成十周年記念交歓演奏会 長門市立日置小学校巡回演奏 福岡県立養護学校「北九州高等学園」 下関市立一の宮小学校</p>		
<p>◆実施時期：交歓演奏会…11月16日 長門市油谷ラポールゆや 巡回演奏…11月17日 長門市立日置小学校</p>		
<p>◆参加人数：演奏者 「白い風車」…22名 山大メンネル…27名 聴衆 ラポールゆや…約400名 日置小学校…約210名</p>		
参加総人員 660名		



《交歓演奏会のタペ》



《小学校巡回演奏》



《小学生からのお礼》



《給食食べながら歓談中》

◆活動が関連する団体等、地域社会等に与えた影響

【交歓演奏会】

長門市油谷地区は山口県の北西部の辺地である。従って文化的にも比較的恵まれていない土地である。そこに各種の合唱形態を展開したので効果があったと考えられる。

【巡回演奏】

アンケートや感想文が送られてきたが、当時のよい雰囲気が伝わるもののが書かれてあった。

演奏を聴き終えて帰る方たちの話を聞いて、演奏会が感銘を与えたことが分かった。

同じ市内にある女声合唱団の方から、「自分たちも演奏会を開きたい希望があるのだが、私たちだけの力では到底開催は難しい。刺激をうけたので自分たちもやりたいのだが」と相談された。

前教育長さんからお礼の手紙をいただいた。

子ども達から「また来て歌って欲しい自分たちも力いっぱい歌ったよ」と感想文にあった。

◆苦労した点

【交歓演奏会】

外部への働きかけは、長門市に住むメンバーが中心となって行った。(市教育委員会・地域文化育成事業実行委員会・ラポールゆやへの共催や後援の折衝など)

一番問題は聞いてくださる方をいかにして多く集めるかということである。多くの費用がかかる演奏会であるが、入場料は無料で行うこととした。(共催の団体の理解で使用会場費が安くなった)

この結果、定員500人の会場がほぼ満席となった。

P Rは、ポスター・プログラム・入場券(全て招待券)などはパソコンで作成した。これらを、地元メンバーで掲示や配布を繰り返して周知を図った。これらの努力と好天候に恵まれたことが当日の聴衆の多さの現れたと思う。

【巡回演奏】

巡回演奏は私たちが目指す演奏会である。受け入れられる学校側の準備が行き届いていた。例えば、メンネルには伴奏者がいないので先生に依頼したのだが、学校では伴奏の必要な曲(4曲)に児童をそれぞれ割り当てて、“仲間の伴奏でメンネルが演奏した”と印象付けて盛り上げた。

日置小の児童は非常に素直であり、礼儀正しい。また、自主的に行動する力も付いており、下級生や特殊学級の児童へも思いやりの姿を見ることが出来た。

◆今後の課題・発展の方向性

【交歓演奏】

依頼があればどの団体とも交流を持ちたいと考えている。やはり、合唱形態の違う女声合唱団との交流が望ましいが、男声合唱との共演も考えられる。しかし、今回のように大きい会場を借りて演奏会を持つと、費用の面で無理が出てくる。

【巡回演奏】

これが私たちが考えている理想の音楽会である。結成当時から目指している“辺地・僻地の児童生徒に生の音楽”を続けて生きたいと考える。

今年度は2月に福岡県立養護学校「北九州高等学園」を訪問するが、校種・大小を問わず依頼を受ければ実行に移すこととしている。

一番の問題点はなんと言っても団員の高年齢化である。現在、平均年齢73歳。しかし、これを逆手にとって、この歳になってもみんな仲良し、まだ歌えるとアピール材料にしている。

◆活動を終えての感想・意見等

今回の演奏会は自画自賛ではあるが大成功であったと思う。

初期の頃に、4人～8人くらいで演奏していたのを思うと、よくぞ多くの方が元気で集まってくれると感動する。いつまで続けることが出来るか不安ではあるが、案内状の返信ハガキに「参加する」とあるのをみると、頭が下がる。